

環境保全の大切さ学ぼう

白浜臨海で水辺環境教室

白浜町内の小学生を集めた水辺環境教室が6日、同町臨海であり、磯辺や山にすむ生物を観察。環境保全の大切さを学んだ。同町生活環境課主催。



同教室は京都大学フィールド科学教育研究センターの協力で開いている。瀬戸臨海実験所と紀伊大島実験所の教員ら5人が講師を務めた。

この日は小学生38人が参加した。限られた区域にいる生物アラレタマキビから満潮の高さを想定した。そのほかカメノテやクロフジツボ、オハグ

磯の生物を捕ったり、チューブを使って水質調査する小学生(6日、白浜町臨海で)

ロガキなどを手に取ってじっくりと観察していた。

また、海水をチューブ(長さ約10センチ)を使って

水質テストすると、きれいな水を示していた。その後、4、6年生が番所山に入った。白浜第一小学校5年の石谷常君(11)と小山郁也君(10)は「いろんな生き物がいて面白かった。海もきれい。大事にした」と話していた。